

い 厳冬期避難所展開・宿泊演習2025に参加

2025年1月18日（土）～19日（日）の日程で日本赤十字北海道看護大学主催による「厳冬期避難所展開・宿泊演習」が開催され、当院から3名が参加しました。

この演習は毎年1月に厳寒の街「北見市」で開催されています。

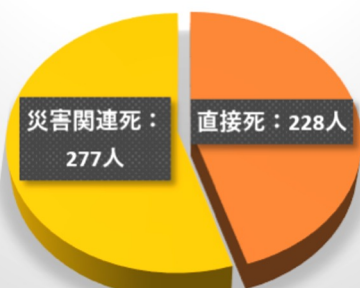
避難所と仮定した体育館は、災害時と同様、停電、上下水道使用不可を想定し、発電機使用による必要最小限の暖房でのスタート。

日中は、かろうじて1℃のプラス室温、夜は暖房を焚いても室温が5℃までしか上がらず冬期の避難所生活の厳しさを体験しました。演習では、「車両立ち往生演習」「感染対策、トイレの環境整備」「並ばない炊き出しの検証」や「雪を活用した濡れない足湯/湯たんぽ演習」など冬期間に必要な、しかし普段は体験できないようなプログラムが盛りだくさんでした。

冬期間の避難所展開の難しさや、支援する側の気を付けなければならないこと等学びの多い演習でした。

この演習には、当院以外の日赤病院職員、DMAT、各市町の防災担当者や日赤病院以外の医療従事者などおよそ140人程が参加し、遠くは鹿児島県、熊本県、愛知県からの参加もありました。

R6年能登半島地震の死者数



冬期の停電を伴う災害は、既存の暖房機器が使用不能となり、避難所でも低温により命を落とす恐れがあります。2024年1月1日に発災した、「令和6年能登半島地震」では、厳冬期の避難所対策の難しさを浮き彫りにしました。

※災害関連死とは、避難所生活や環境の変化などによって病気の発症や持病の悪化などで亡くなってしまうこと。

